

Q：では、今の日本は原発なしで電気の供給が十分にできるのでしょうか？

A：今回の福島原発事故及び浜岡原発の停止などにより、原発 4 基（定期点検中除く）が停止した事になりますが、事故後計画停電が短期間あったのみで、各家庭や企業の省エネ・節電努力によりその後広域停電は起こっていません。つまり 6 月現在電気は足りています。あの震災の甚大な被害を見て、日本全土で実際にコンセントを抜き、待機電力を減らし、余計な電力消費をせずに、少し暗くなった駅や施設・街の灯りを受け入れ、国民や企業が常に節電を心がける事により、原発 4 基分+震災による火力発電の停止分の省エネが出来たという事になります。

では、日本中ですべての原発を今いきなり止めるとどうなるか、これは電力会社が発電所の定格出力のみしか公式には発表しないので、実際のところ、詳細には計算できません。原子力を始め、各種火力発電や水力発電などの稼働状況や実際の発電端出力を明らかにしないからです。

しかしながら、東京電力の発表（2011/5/13）によると、今夏（2011 年）のピーク時に、震災で止まっていた火力発電所の復旧や揚水発電の活用などによって、5,620 万 kw の発電能力を確保出来る見通しとの事ですから、年間を通し 4,000 ~ 6,000 万 kw の需要に対しては、かなりの部分を原発以外の発電でカバー出来た計算になります。

電気が足りなくなるのは、365 日 24 時間 = 8,760 時間中、わずかに年間 10 時間足らず「夏場、平日、日中 14 時から 15 時にかけて、気温が 31 °C を超えた時」のおよそ 0.1 % の時間だけです。日本の全発電所の年間負荷率は約 60 % なので、発電設備は 40 % 休んでいます。ピークの 10 時間をやり繰りするためだけに、発電ベースとして小回りの利かない原発を使用し、それを補う大型火力・水力発電が用意されている日本の発電事情は、いかに無駄が多いかという事がわかります。（『原発に頼らない社会へ』田中優著より一部引用）

単に出力だけの問題で、「原発止めたら電気は足りるか？」とい

う課題を議論しようとする、論点が見えにくくなります。原発は前述した通り、他の発電方法に対して圧倒的に出力が大きく、稼働させれば出力は急に増え、止めれば（または事故などで止まれば）供給力が著しく減るため、リスクの大きな発電方法です。

原発分の出力を補う「発電方法」を論じるのではなく、いかに省エネを進め、地域分散型で再生可能な小さなエネルギーの一般発電事業者を増やして導入していくかを考えなくてはなりません。出来る限りの早いスピードで、原発への依存を段階的に減らして脱却していくには、エネルギー計画及び政策を変え動かしていく方法を広く模索する事が必要と考えます。